



プレスリリース

令和元年12月10日

各報道機関 御中

道志村
国立大学法人山梨大学

「道志村と国立大学法人山梨大学との包括的連携協定」の締結について

道志村と国立大学法人山梨大学は、生活・自然環境、健康・福祉、教育・文化、産業・科学技術、まちづくりの各分野で協力し、豊かで活力ある地域社会の形成と地域の振興を図り、相互の発展を目指すことを目的として、このたび、包括的連携協定を締結することとなりました。

つきましては、下記により調印式を挙行しますので、取材方よろしくお願い致します。

記

日 時	令和元年12月16日(月) 15時00分～
場 所	道志村役場 二階会議室(南都留郡道志村6181-1)
出席者	道 志 村 長 田 富 也 村長 国立大学法人山梨大学 島 田 眞 路 学長

具体的な取り組み (詳細は別紙を参照願います)

○野生動物調査・対策に関する地域協働事業

<問い合わせ先>

道志村ふるさと振興課 課長 菅谷 克士

TEL : 0554-52-2115

山梨大学社会連携課 課長 島田 好巳

TEL : 055-220-8780

「道志村と国立大学法人山梨大学との包括的連携協定」の締結について（概要）

1 背景

山梨大学は、「地域の中核 世界の人材」をキャッチフレーズに、第三期中期目標・中期計画などで「地域貢献」を掲げ、これまで以上に地域の期待に応えることを明確化して、地域の様々な要請に応え、地域振興などの活動に積極的に関わることとしている。

平成 26 年度に採択された「地(知)の拠点整備事業(大学 COC 事業)」においても、継続し社会貢献として地域との連携協定の締結を進めることとしている。

道志村では、地方創生や人口対策に向け、「道志村まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成 27 年策定)」を推進するとともに、平成 30 年度からは、雇用の場を提供できるような事業を展開し、人口減少に歯止めをかける対策として、サテライトオフィス構想が追加され、また、U・I ターン者に向けた助成事業も取り組んでいる。さらに、時代を的確に把握し、持続可能な地域社会をつくっていくために、村民の意見、村民アンケート等を踏まえ新たな「道志村総合計画」を策定し、むらづくりの将来像として「人と自然が輝く水源の郷」を掲げ、村民一人ひとりが安らぎと潤いのある生活を送れるよう、安定した活力あるむらの創出を目指している。加えて、「道志村福祉村構想」を基本とし、住んでみたい村、住んでよかった村の実現にむけ、高齢者が安心できる村づくり、子育てにやさしい村づくり、安心で住みよい村づくりを推進している。

2 包括的連携協定の締結

道志村が目指すむらづくりの基本方針に向けて、山梨大学の有する人的資源を活用し、その目的達成を図ると共に、地域への貢献をも使命とする国立大学法人山梨大学が、地域の期待に応えることとする。

また、活力ある地域社会の形成、発展を目指して、双方の持つ資源の活用や様々な分野での緊密な連携を図るため、包括的連携協定を締結する。

3 両機関の目指すところ

(1) 道志村は、次の事業実施による地域・村政の活性化を目指す

野生動物調査・対策に関する取り組みの施策実施

(2) 山梨大学は、次の計画、事業で「地域貢献、特定分野の研究」を目指す

「地域の中核 世界の人材」、第三期中期目標での社会との連携、社会貢献の達成

4 実施事業

○野生動物調査・対策に関する地域協働事業

(担当：生命環境学域 馬籠純 助教)

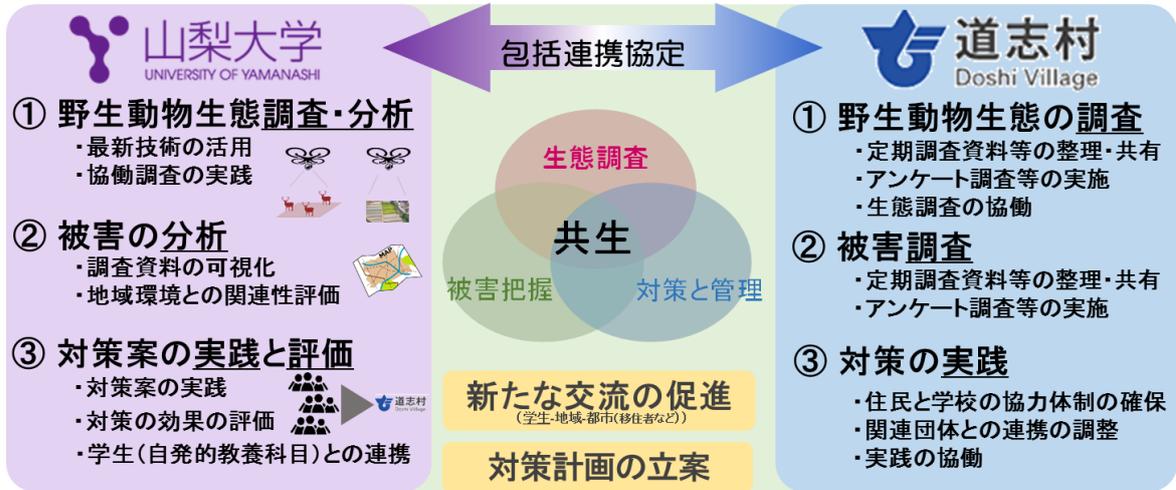
5 事業概要

別紙のとおり

6 将来展望

本事業は、地域の新たな野生動物調査・対策に関する取り組みとして、道志村のみならず他の地域の参考になるものと期待できる。

野生動物調査・対策に関する地域協働事業 (野生動物調査・対策)



水源の郷として自然との共生を目指す道志村における
 野生動物との豊かな共生のための
 地域協働の実践

